

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	泉大津市新消防庁舎	階数	地上3階建て
建設地	泉大津市池浦町一丁目 22 番 1 の	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	95 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2016年5月31日
敷地面積	2,550 m ²	作成者	久家一哲
建築面積	1,271 m ²	確認日	2016年5月31日
延床面積	2,266 m ²	確認者	久家一哲



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138
②建築物の取組み	46
③上記+②以外の	92
④上記+	138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7

音環境	3.2
温熱環境	1.4
光・視環境	3.3
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5

機能性	3.3
耐用性	4.0
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.9

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性	3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	3.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8

水資源	3.8
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	4.0
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>市民を守る「防災の砦」としていかなる時も機能維持が可能な新消防庁舎をつくります。消防本部・消防署の室機能を整理し、効率的に集約することで無駄のない施設づくりを進めます。泉大津市の新しいシンボルとして、防災拠点の顔となる新消防庁舎を創造します。</p>		特になし。
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務室・通信指令室などの執務を行う部屋は、開口部を広く設けて自然採光をできるだけ確保できるように配慮。また、日常職員が利用する部屋は、東側に集中させて自然光を取り入れることが可能な計画としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>内装は維持管理のしやすい素材を選定。災害時にも稼働できる庁舎とするため、重要度係数を1.5とし、非常用発電機などのバックアップ機能も配備する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内で可能な限りの緑化を行っている。東側の道路(南海中央線)側には、ルーバーを配置するなど景観に配慮するとともに、歩行者と執務室内部の職員の視線が交錯しないように配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明などの高効率器具の採用を行っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>訓練塔下部に雨水貯留槽を設けて、雨水を訓練に利用できるようにしている。仕上材もリサイクル材を利用するなど、環境に配慮した素材を選定している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>特になし。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H28-0074

Osakafu-新築・既存 2015V1.03

【建物概要】	建物名称	泉大津市新消防庁舎						
	建設地	泉大津市池浦町一丁目 22 番1の一部/ 23番1/ 23番5						
	用途/区分	事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
	CO2削減						4	
	省エネ対策						4	
	みどり・ヒート アイランド対策						3	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
	項目	評価内容				スコア	評価	
	① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価			建物全体	3.0	4	
					住戸・宿泊			
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0		
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0		
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.0		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0		
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				3.8		
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
	項目	評価内容				スコア	評価	
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	職員が日常利用する室は、広い開口を設けて自然採光を確保。災害時にも稼働できるように重要度係数を高めるとともに非常用発電機などのバックアップ機能を配備。放水訓練など水を利用する訓練は訓練塔下部の雨水貯留槽にためた水を利用するなど、省エネに配慮。						